

【中学校】

No	学年	教科	種類	題材	実践内容
1	2	国語	①④	付属語(助詞),敬語	<ul style="list-style-type: none"> ・男がよく使う言葉、女がよく使う言葉について考えさせて、敬語の学習を行った。 ・「男だから粗雑な言い方が許される」反対に「男女平等だから女の乱暴な言葉を使うことが認められる」ということではなく、美しい言葉を学び、身につけることは、男女の区別はないことを学習した。
2	1	社会	④	他民族社会	<ul style="list-style-type: none"> ・国籍という視点で性別・出身地、言語、文化の敬意、血統の異なる人物を6人設定して話し合い、それぞれの差異をこえて、多民族社会を形成することの大切さについて議論した。
3	3	社会	④	人権(平等権)	<ul style="list-style-type: none"> ・世の中にはどんな差別があるかを考え、その解決をめざしたとくみについて学習した。 ・女子差別撤廃条約や男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法についても扱った。
4	3	社会	①④	私たちの暮らしと現代社会	<ul style="list-style-type: none"> ・共働きの夫婦のどちらかに転勤命令が出た場合、また、子どもの誕生後にどちらかに転勤命令が出た場合にするかを考える中で、男女の仕事における責任の差、給料の差等、人々の意識の中に男女の差があることに気づくという授業を行い、性別による差別について考えた。
5	3	社会	①②	基本的人権の尊重 法の下での平等	<ul style="list-style-type: none"> ・男女のちがいについて話し合いをさせ、あってはいけないちがいはどういう点かを考えさせて、労働問題を軸に男女平等をうたっている憲法の下、あってはいけないちがいをなくするためにどうしたら良いか方策を考える授業を行った。 ・社会における男女の地位や役割について、平等権という基本的人権の学習にあわせて行った。 ・男女雇用機会均等法や男女共同参画社会法が制定され、男女の性に関係なく自分の役割を果たしていく社会づくりがされていくことの大切さを学習した。 ・育児休暇の取得率の男女差から、取得率の差をうめるためには、制度の改革だけではなく、個人の意識を変えていくことが必要だと学習した。
6	1	英語	④	New Year's Visit	<ul style="list-style-type: none"> ・正月のお雑煮をおじいさんが作るという場面から、自分の家では誰が作るのかを尋ね、それぞれの家庭によって違うことがわかり、料理=母ではなく、得意な人がやったり、その時々で分担することを学習した。
7	2	家庭科	①	調理分野	<ul style="list-style-type: none"> ・性差に関わらず、料理など生活のために家事をすすんで行うことが出来る人間育成を、調理実習等を通して行った。

No	学年	教科	種類	題材	実践内容
8	2	家庭科	①	幼児の生活と家族	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育てトーク」に参加し、乳幼児と遊んだり世話をしたりしていく中で、家庭における役割は男女の違いではなく、協力して行っていくことが大切という意識付けをした。
9	2	技術・家庭 家庭分野	①④	幼児交流学習 (子ども園訪問)	<ul style="list-style-type: none"> ・男女混合グループで、対象児の年齢に応じた遊びの活動計画をたて、実践した。 ・役割分担は男女関係なく得手不得手を主眼にさせた。また遊びも男女が共に楽しめるものを考えさせた。
10	3	家庭科	④	これからの私と家族	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの自分と家族、地域との関わりの学習の中で、「共生」について取り上げた。 ・どんな人たちとの「共生」が必要かを考える中で、能力を十分に発揮することが出来る社会のために、男女共同参画社会基本法が制定されていることを学習した。
11	1,2	体育	④	柔道、持久走、体力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共修の授業を多く取り入れ、男女の違いではなく、互いが支え合って技能を高められるような指導をした。
12	3	体育	④	球技(ソフトテニス、バレー、サッカー)、器械運動等	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共修で、保健体育を行うことを通して、男女の違いやお互いの良さを認め合うことを学習した。お互いに気遣いながらプレーをすることができた。
13	2	学活	④	よりよい学級づくりに向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のクラスをより良いものにするため、男女でお互いの良い所を伝え合った。 ・その良さを認めながら、足りない部分は互いに補い合っていくことの大切さを改めて認識した。
14	2	道徳	④	互いに認め合う集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼の目かくしを授業の最初で行った。 ・その感想をお互いに語り合うことで、人はそれぞれ感じ方も異なるが、互いに認め合うことが大切であるという学習をした。
15	2	道徳	②	「らしさ」ってなんだろう	<ul style="list-style-type: none"> ・性別によって限定されがちであった、古い習慣や固定観念を見直した。 ・職業について考えるとともに、自分らしさが活かされる職業を選択することの大切さについて、実例を通して学んだ。
16	1	道徳 体育	①②③	男女共同参画 フォークダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の資料を使って、男や女の変なこだわりをなくそうという学習をした。 ・フォークダンスを通して、男女で組んだり、男子が女子の役をやる等、楽しんでやった。男子役女子役があっても、それに関係なく楽しむことを学んだ。

No	学年	教科	種類	題材	実践内容
17	1	総合	②	ちがいのちがい	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験の事前学習として、無意識のうちに根付いている性別役割分担に気づかせ、男女共同参画の意義について考えさせた。
18	1	総合	①②	職業と性別	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験の事前学習として、性によって職業選択の機会を限定する必要はなく、また、性別で職業や行動を差別しないことが大切であると学習した。 ・社会の役割は、男女の違いではなく、個人の能力、関心によって、分担されていることを職場を見学することで学んだ。